

令和7年度 那須塩原市建設工事成績評価結果

1. 対象

那須塩原市が発注した設計金額130万円（令和7年6月1日以降は200万円）を超える建設工事かつ、令和7年度（令和7年4月1日～令和8年3月31日）に契約検査課が完成検査を実施した建設工事を対象とする。

建設工事完成検査件数

[単位：件]

工種別	令和7年度	令和6年度	増 減
土木一式工事	32	31	1
建築一式工事	4	17	▲13
電気工事	10	14	▲4
管工事	10	11	▲1
舗装工事	17	23	▲6
水道施設工事	18	14	4
その他工事	10	12	▲2
計	101	122	▲21

2. 評定点

令和7年度に完成検査を実施した全工事の平均評定点は74.0点であり、令和6年度の74.5点から全体で0.5点下降する結果となった。

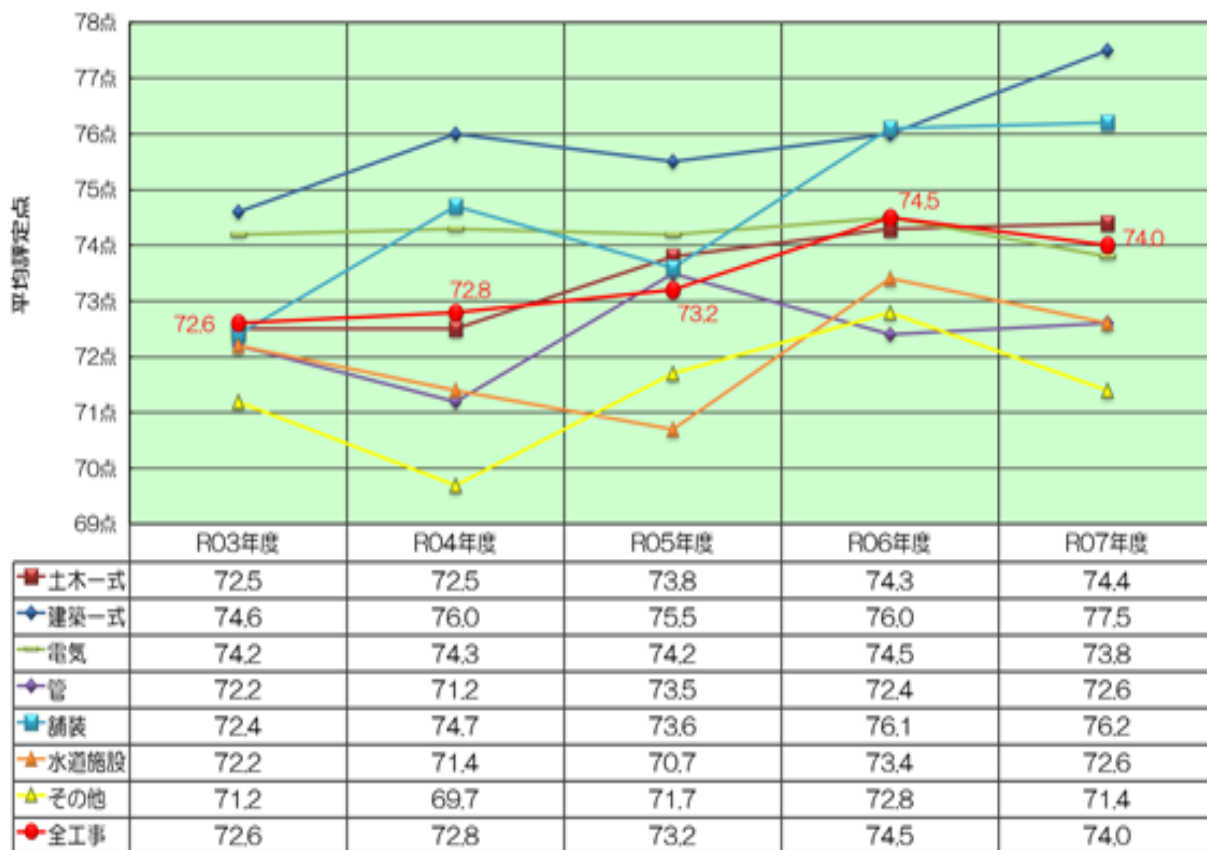
工種別に見ると、土木一式工事（74.4点、前年度比+0.1点）、建築一式工事（77.5点、同+1.5点）、管工事（72.6点、同+0.2点）、舗装工事（76.2点、同+0.1点）で上昇またはほぼ横ばいとなった一方、電気工事（73.8点、同▲0.7点）、水道施設工事（72.6点、同▲0.8点）、その他工事（71.4点、同▲0.8点）の結果となった。（図1参照）

図1. 令和7年度 建設工事【工種別一平均、最高、最低工事成績評価】



過去5か年の推移としては、すべての工種の平均評定点が70点を超えており、一定程度以上の品質確保が図られていると考えられるが、工種間でのばらつきも見受けられる。（図2参照）

図2. 過去5か年の建設工事【工種別一平均工事成績評定点推移】



3. 総合評価

総合評価のランク別に分類した場合の令和7年度における工事件数は、A評価は8件、B評価は36件、C評価は56件、D評価は0件、E評価は1件である。

全工事件数に対する各評価工事件数の割合について、前年度（令和6年度）と比較すると、A評価は7.9%（令和6年度：7.4%）と微増し優秀な工事の割合は維持されている。一方、B評価は35.6%（令和6年度：44.2%）と減少し、C評価は55.4%（令和6年度：45.9%）と増加した。前年度はB評価の増加がみられたものの、全体として標準的な工事（C評価）に回帰している傾向が伺える。

工種別の令和7年度と令和6年度の比較においては、前年度にB評価がC評価を上回っていた「土木一式工事」と「電気工事」が、令和7年度は再びC評価がB評価を上回る（C評価優位）結果に逆転した。これが全体のB評価減少の大きな要因となっている。一方で、「舗装工事」は令和7年度も引き続きB評価（12件）がC評価（5件）を大きく上回っており、高い品質水準を安定して確保できている。

また、「管工事」「水道施設工事」「その他工事」は前年度から一貫してC評価がB評価を上回る状態が続いている。さらに、今後改善すべき事項があるD評価対象工事は0件（令和6年度：3件）と減少したものの、今後指名等に影響を及ぼすおそれのあるE評価対象工事が水道施設工事で1件（1.0%）発生した。長らくE評価が0件であった過去数年の状況から変化が生じており、注視すべき点である。（図3、図4参照）

図3. 令和7年度建設工事 【工種別—総合評価】件数分布状況

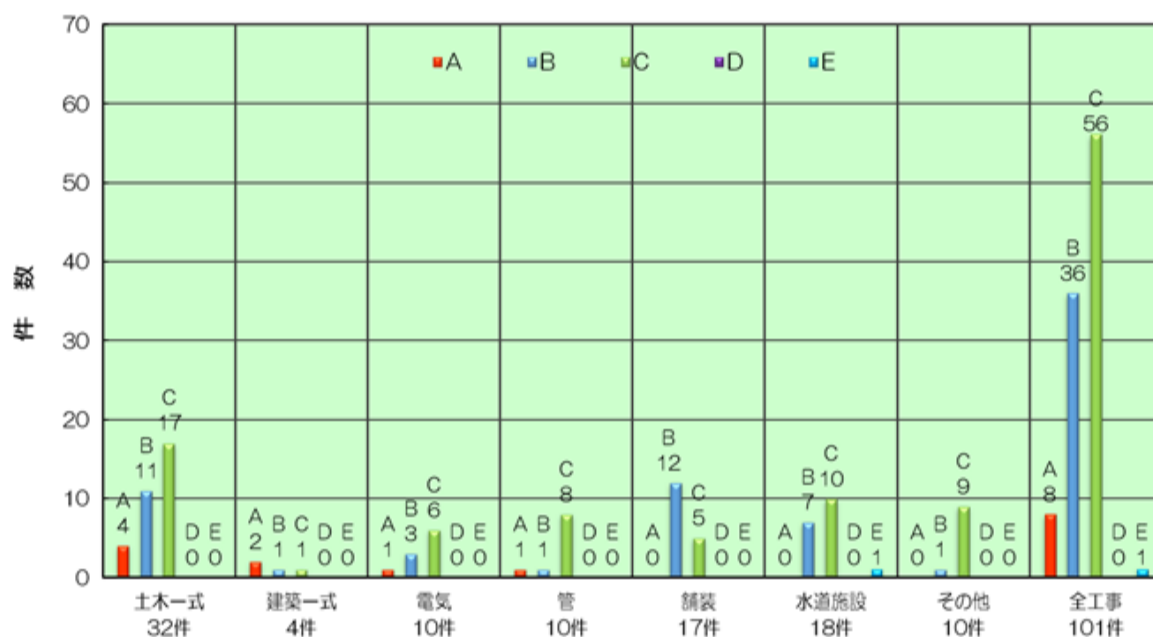


図4. 令和6年度建設工事 【工種別—総合評価】件数分布状況

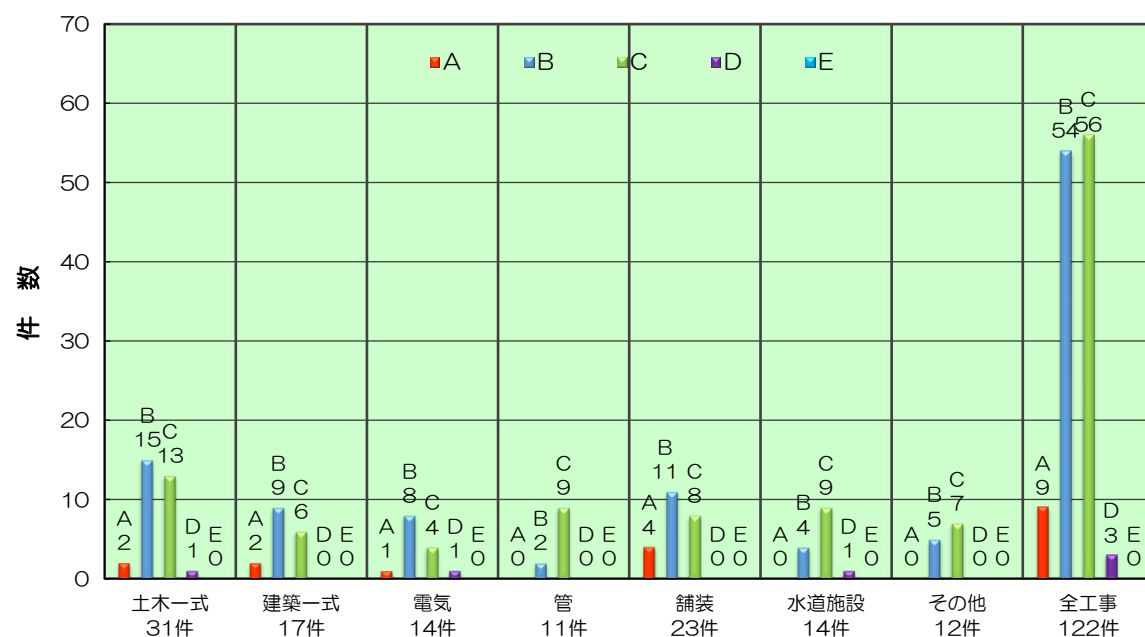


表1. 総合評価の標準

ランク	評定点の標準値	総合評価の標準	
A	80 点 以上	他の模範となる優秀な工事	
B	75～79 点	標準的工事	A ランクではないが、標準的工事の中で優秀なもの
C	65～74 点		標準的な工事
D	60～64 点		E ランクではないが、今後改善すべき事項がある工事
E	59 点 以下	今後指名等に影響を及ぼすおそれのある工事	